

岩屋中だより

令和6年3月15日 NO29

発行 長崎市立岩屋中学校

文責：校長 川口 猛

卒業証書授与式の在校生の送ることば（送辞）を紹介いたします。（WEB版）

私たちの学び舎、岩屋中学校にも春がやって来ました。柔らかな日差しに心温かな温もりを感じ、草花の芽吹きを運ぶ風が駆け抜けていきます。このさわやかな季節に、晴れの日を迎えられた先輩方、ご卒業おめでとうございます。今、私たちは、お別れの寂しさと、明るくお祝いしたい気持ちとが混ざり合い、複雑な心境で先輩方を見つめています。先輩方の旅立ちに贈るべき言葉を、上手に見つけることができませんが、今日は、先輩方との思い出を語ることで、お別れの言葉とさせていただきます。

先輩方は、間違いなく私たちのリーダーでした。お手本でした。全校集会や学校行事での集合の早さ、あいさつ運動や日々の清掃も取りかかりが早く、積極的でした。受験期になると昼休みでもシーンとした教室で真剣に学習されていました。また、面接の練習などで、先生方に熱心に質問している姿を、よく見かけました。一年後もしくは二年後、自分たちがそのような雰囲気を作れるか、自信がありません。体育大会での力強い走りは圧巻で、特に、リレーの迫力に魅了されたことを覚えています。声や動きがダイナミックで、私たち一、二年生とは迫力が違うなあと、先輩方の偉大さを実感しました。合唱コンクールでは、どのクラスも甲乙つけがたい美しいハーモニーでした。練習の段階から、昼休みや放課後には大きく迫力ある歌声が学校中に響きわたり、「あたりまえが幸せと知った」のフレーズは凶らずも、今を生きる私たちに、「日常の当たり前が、いちばん幸せ」ということを教えてくれました。平和集会や人権集会では、工夫を凝らした表現力で発表をされていて、伝える技術の高さを目の当たりにしました。一つ一つの学校行事に真剣に取り組む姿が、今でも鮮明に思い出されます。

そして、何といても、ともに汗を流した部活動は、先輩方との、大切な思い出です。各種大会で、輝かしい成績を収めた方がいます。歯を食いしばって練習し、磨き合い、高め合うことで、結果は出せるということを、先輩方は教えてくださいました。個人的な話題になりますが、私は、駅伝大会で急きょ、三区を任されることになりました。みんなの気持ちを背負い、必死で走り切りました。でも、結果は、目指していた県大会出場には届きませんでした。厳しい練習の中、やめてしまいたい、と思ったときにも、「一緒に最後まで頑張ろう！」と勇気をくださった先輩方だったのに、力が及ばず、申し訳ない気持ちとこれまでの感謝の気持ちで涙があふれました。あの時、走り続けることができたのは、先輩方のおかげです。「本当にありがとうございました。」

生徒会役員の先輩方、一年間お疲れ様でした。たくさんのアイディアを出し合い、みんなが楽しめる活動を考えて実行していただきました。生徒総会や全校集会での堂々と発言する姿にあこがれていました。また、毎朝学校周辺の清掃、ハイブリットあいさつなど、いつも、誰かのためになることに全力を注いでいました。私たちは、これから先輩方の意志を受け継ぎ、一人ひとりが意識を高く持って、全員で協力してこの岩屋中学校をもっともっと誇れる学校にしていきます。先輩方が築き上げてきた岩屋中の伝統を守り、さらに発展させていくことを今日ここに誓いたいと思います。いくら言葉を重ねても、思い出を語り尽くすことはできません。お別れの時が迫っています。全ての先輩方の未来が、輝かしいものとなるようお願い、送る言葉といたします。

令和6年3月14日

在校生代表



素晴らしい式場、素晴らしい教室などの装飾、素晴らしい
玄関装飾、素晴らしい玄関前黒板、素晴らしい清掃活動。
在校生の皆さん、本当にありがとうございます！